

スウェーデン産業労組(IFメタル)定期大会ひらく

ステファン・ロフベン会長が再選

代議員 300 名が参加し、運動方針など審議決定

スウェーデン産業労連（IFメタル）は、2011年6月17-20日、スウェーデン首都ストックホルムの国際展示場で、定期大会を開催した。会議には、大会代議員300名の他、傍聴者が多数出席した。海外から18カ国28組織39人の来賓が出席した。大会では、役員選挙、パネル討論、運動方針・予算などの議案を審議・決定した。役員選挙ではロフベン会長が再選された。IMF-JCから海老ヶ瀬豊副議長、野木正弘事務局次長が出席した。

6月17日のオープニングセレモニーでは、サリドマイドで腕が不自由な女性歌手による歌の披露とトーク、女性コメディアンによる男女の性の話題を含む大胆な男女平等論トーク、製造現場で働く労働者の映像をバックに流しながらのロックバンドの演奏等の演出があり、「社会的包摂」「男女平等」「ものづくりへの誇り」「グローバル化」等あらゆるキーワードが自然な形で表現されていた。この後、主催者を代表してステファン・ロフベン会長が挨拶した後、役員選挙、海外来賓の紹介、社民党党首挨拶などが行われた。

〈ロフベン会長挨拶〉

ロフベン会長は挨拶の中で、「今大会は職場、支部の案件はもとよりIFメタルの将来を考えていく重要な場である。労使の課題は、労使で話し合って合意に達することが重要である」と今大会の意義を述べた後、グローバル市場について言及、「グローバルマーケットは一つとなっており、中国もスウェーデン製品の今後の大切な顧客である」と述べた。原発については、「原発は慎重な議論が必要である。スウェーデンは水力発電60%だが長期的視野での判断が必要」とコメントした。また、雇用問題については、「失業時の訓練や失業給付により極力早期に社会に復帰させるスウェーデンモデルの重要性」について強調した。現在の経済・政治情勢については「アングロサクソンの株主資本主義は断固拒否。保守連立政権は労働者を軽視し、スウェーデンモデルが崩れつつある。社民党内にも『労組と手を切れ』との意見もある。労働者だけに負担の押し付けはNG。IFメタルは組合員のため、社会のために活動を進める」と述べた。IFAについては「国際枠組み協定の締結等により経営者は社会的責任を果たすべき。職場、国内の活動だけでなく、ヨーロッパレベルの活動、世界レベルの活動も視野に活動を展開していく」と述べ、最後に「世界の労働者は互いに尊敬の念を持ち、団結すべきである。男女平等社会を実現し、『工場でものづくりをやりたい』と希望する人がもっと出てくるような社会にしていきたい。我々は今後とも前進し続ける」等と抱負を述べた。

〈役員選挙〉

役員選挙では、会長、上級副会長、書記長、労使交渉責任者の4名が役員選挙の対象となった。選挙の結果、ロフベン会長は再選された。モニカ新書記長は、サーブでテストドライバーをしていたとのことである。

〈海外来賓紹介・挨拶〉

海外から欧州を中心に18カ国28組織39人の来賓が出席した。海外来賓は、ステージに一人ひとり上げて紹介された。

海外来賓を代表して挨拶したユルキ・ライナIMF書記長は、あいさつの中で3GUF統合問題に触れ、「2012年6月に3GUFが統合予定」であるとしたが、さほどの前置きなしにその点に触れたところをみても、3GUFの統合論議がすでに十分代議員には浸透していることが伺われた。

〈大会2日目：パネルディスカッション〉

大会2日目のパネルディスカッションには、スウェーデン社民党、UNDP、企業、労組（IMF書記長）他、幅広く著名人がパネリストとして参加。若年者雇用問題、地

球環境問題、グローバル経済、労働組合権、生涯教育など幅広い議論が展開された。これも対象となる代議員の意識の高さ、代議員へのIFメタル本部の役割期待の高さを伺わせるものであった。



<大会オープニング>



<ロフベンIFメタル会長あいさつ>



<議案審議>



<海老ヶ瀬副議長[右]と野木次長>

以上